

1 飛鳥宮跡における景観

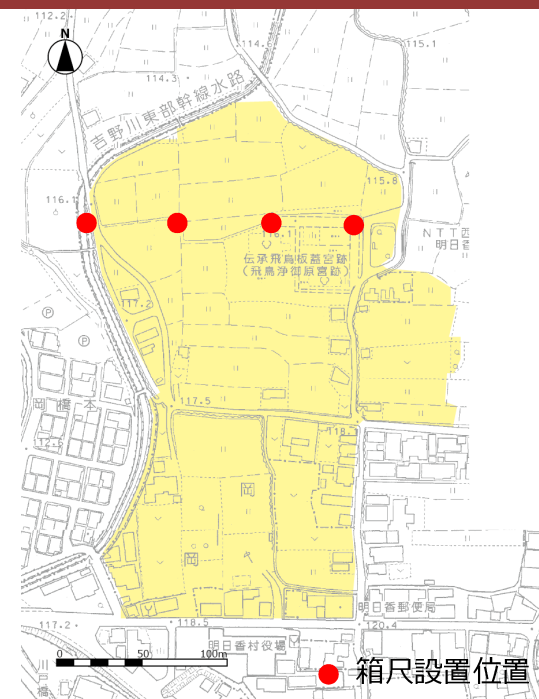
4) 外部からの景観の検証

(1)調査の目的

- 立体的な遺構表示による景観面での課題点を抽出するため、宮跡外部からの「見え方」の確認を行った

(2)調査の方法

- 宮跡内郭北辺の4ヶ所（東西角及び中間）に高さ4mの箱尺を設置し、宮跡周辺の道路上から見える範囲について検証を行った
- 回廊高さは不明であるが、箱尺高さは、見え方の検証のため4mとした



1 飛鳥宮跡における景観

(3)調査結果

- 宮跡北側から飛鳥集落にかけての広いエリアから、H=4mの箱尺が認識される



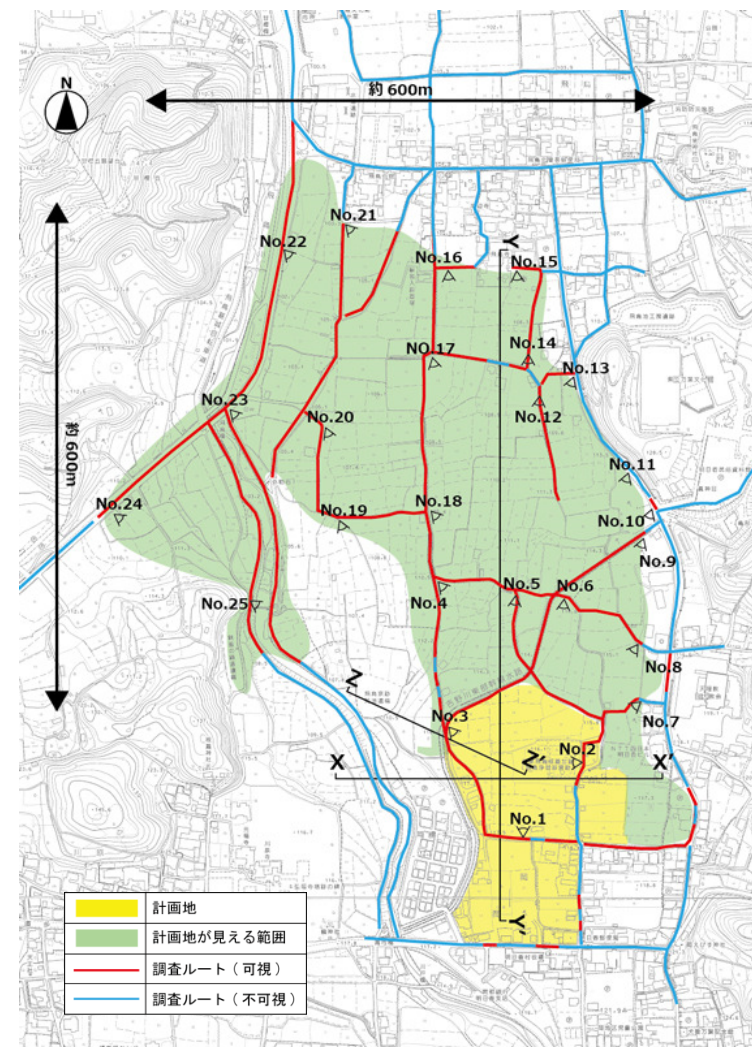
No.11



No.15



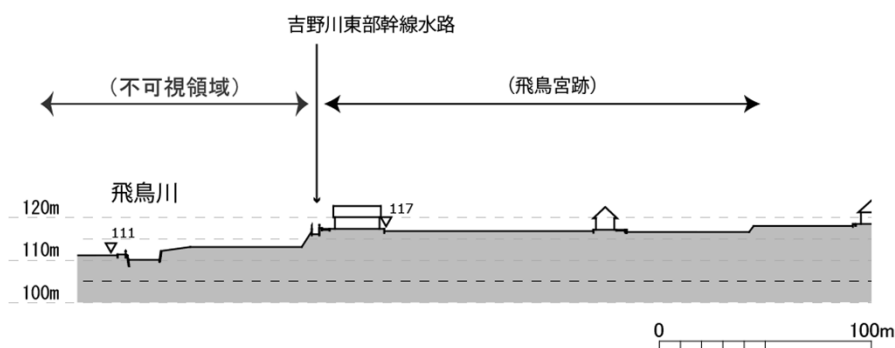
No.17



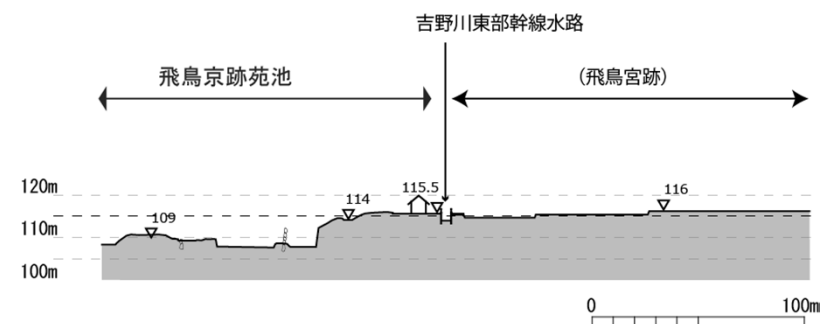
1 飛鳥宮跡における景観

- 飛鳥宮跡と隣接地を含む断面図を示す
- 宮跡との高低差が大きい飛鳥川沿いや飛鳥京跡苑池周辺は、宮跡が見えない（地形によって視界が遮られる）エリアとなっている

X-X' 断面 (V:H=2:1)



Z-Z' 断面 (V:H=2:1)



Y-Y' 断面 (V:H=2:1)

